

亜細亜大学中長期計画 ー新・アジア未来マップー

第3期5カ年中期行動計画

ーアジア(亜細亜)からグローバルへー

学校法人亜細亜学園

令和4年3月24日

I ミッション

建学の精神「自助協力」

多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成

亜細亜大学は、ミッション実現の動力としての建学の精神「自助協力」に基づき、学生が主体的に学び自己の可能性を広げることを支援し、創造力と実行力をもって新たな時代のリーダーとなる人材を育てます。

また、多様化する世界の中で、相互理解と調和をもって、アジア地域を中心に国際社会の発展と平和に貢献する人材の育成をすすめます。

II ビジョン — 亜細亜大学の将来像

亜細亜大学のミッションに基づく人材の育成は、新たな時代において、ますますその重要性が高まるに違いありません。

亜細亜大学は、こうした時代に対応すべく、自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成をビジョンとします。

アジア交流の拠点となる

国際交流・国際連携を強化し、グローバル社会でリーダーシップを発揮できる高い志と行動力にあふれた人材を育成し、アジア研究・交流の拠点大学となります。

すべての学生が充実感・達成感を得られる大学となる

知的関心を呼びおこす双方向的授業を軸に、学修者本位の教育体制を構築し、あわせて多彩な課外活動の機会、快適なキャンパス空間を提供し、すべての学生が成長と満足を実感できる大学となります。

社会との連携を拡充し、社会貢献を更に推進する

大学の有する資源、研究成果を社会に還元し、また生涯学習及び地域活性化を促進し、あわせて社会貢献活動を通じて、学生の問題解決力、行動力を育てます。

III 社会環境及び大学を取り巻く動向

- (1) 18歳人口の減少とコロナ禍における新しい生活様式の導入
- (2) Society 5.0におけるIoTやAI等の先進技術の発展
- (3) DX（デジタルトランスフォーメーション）時代に対応可能な人材育成
- (4) ガバナンス・コード、教学マネジメント指針等の大学を取り巻く制度の変化
- (5) SDGsの目標達成に向けた社会的・国際的に求められる期待と役割の増大

IV 第1期・第2期3カ年中期行動計画の振り返り

(1) 第1期3カ年中期行動計画の振り返り

第1期3カ年中期行動計画期間（平成28年度～平成30年度）においては、①都市創造学部都市創造学科の開設、②ASEAN諸国留学生奨学金制度及びASEAN-JAPANプログラムの開設、③近隣や関係する自治体等との包括的な社会連携の推進、④創立75周年事業の実施、⑤武蔵野キャンパス再開発計画の推進、等を実施しました。

(2) 第2期3カ年中期行動計画の振り返り

第2期3カ年中期行動計画期間（令和元年度～令和3年度）においては、①1コマ105分授業・半期13週の実施、②スポーツ科学副専攻・データサイエンス副専攻の開設、③マレーシアにおける5カ月間の留学プログラム（AUASP）の構築、④アメリカプログラム（AUAP）オンライン留学の実施、⑤新型コロナウイルス感染症拡大に伴い経済的な影響を受けている学生の支援を目的とする「亜細亜学園修学支援特別奨学金制度」の設立、等を実施しました。

V 第3期5カ年中期行動計画のスローガン・基本方針

第3期5カ年中期行動計画は、第1期・第2期中期行動計画の達成状況を受けて、また令和2年3月の大学基準協会による認証評価結果を踏まえ策定しています。

第3期5カ年中期行動計画は、with コロナ、after コロナの状況に適切に対処しながら、Society 5.0、DX等の急速な社会的変化に対応した教育を提供し、本学の強みである国際交流・連携の拡充により有能な国際人を多数輩出し、18歳人口の長期的減少下においても選ばれる大学となる施策を確実に実行するため、以下のとおりスローガンと7つの基本方針を定め、推進します。

【スローガン】

楽しい大学・面白授業・アジアと共に
～選びたくなる 亜細亜大学～

【基本方針】

- (1) **アジア学修の浸透及び国際交流の持続展開(実留学・オンライン交流の両面体制の堅持)**
アジア交流を活発化させ、アジア関連授業を増やし、観光を含めて在学中のアジア体験を推奨し、アジアをより身近に感じさせる仕組みを作ります。
- (2) **社会の変化に対応した新しい学科の開設による教育の拡充**
グローバル化の進展、気候変動、社会におけるダイバーシティの広まり等を見据えて、そうした変化に対応できる学科・学部を開設します。その嚆矢として、Society 5.0出現を念頭におき、データサイエンス教育を主導できる学科の開設を目指します。
- (3) **主体的学修力の育成強化**
文書作成能力、英語力、データ分析力、プレゼンテーション能力の基礎教育を徹底し、あわせて自主的に学修し、かつ行動できる学生を育てます。
- (4) **楽しい大学・面白授業の構築**
教員の個性を生かした多様な手法により、学問の面白さを学生に伝え、講義、ゼミ、語学、課外活動ほかを通して、すべての学生が達成感・充実感を味わい、それにより本学が楽しい大学であると実感できる体制を構築します。
- (5) **社会連携活動の拡充**
本学の既存資源（教育・研究・国際交流・スポーツ等）を更に積極的に活用した社会連携活動を推進し、あわせて学生の問題解決力、行動力向上を図ります。
- (6) **広報活動の強化**
各種広報手段を活用した戦略的な広報活動（認知度向上・志願者獲得）を強化します。
- (7) **ガバナンス体制の構築**
本学の持続的発展を支えるガバナンス体制を構築します。

VI アクションプラン –ビジョンを具現する重点行動施策

ビジョンを着実に具現するための重点行動施策を「国際化」、「教育・研究活動」、「学修環境・支援」、「社会連携」及び「大学運営」と分け、それぞれの重点行動施策の推進に全学的に努めます。

1 国際化施策(焦点=アジア交流拡充)

- (1) 実留学体験者数を令和元年水準まで戻し、更に増加させます。あわせてオンライン留学、English Cafe 等多彩な国際交流機会を提供します。
- (2) アジア地域体験（観光を含む）を奨励し、体験学生数を増加させます。
- (3) アジア地域からの留学生数の増加を目指します。
- (4) ASEAN 諸国留学生奨学金給付学生をはじめとする留学生の学修及び就職活動を支援し、かつ留学生の活躍ぶりを広く学内外に周知します。

2 教育・研究活動施策(焦点=基礎教育+アクティブな授業+成果明示)

- (1) 各学部・学科等が主体となって、「面白い」「役に立つ」授業を増加させるよう奨励し、かつ支援します。
- (2) 学修者本位の視点に立って、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」をより明確に学生に示し、学生が自身の学修の到達点及び学修特性を確認できる仕組みを作ります。
- (3) すべての学生が、社会で求められる文書作成能力、資料調査の方法、データ分析力、プレゼンテーションと討論の技法を修得できるよう、指導を強化します。
- (4) 「対面授業」と「オンライン授業」について、試行錯誤を重ねつつ、それぞれの特質を生かせるベストミックス授業体制を構築します。
- (5) 学生満足度向上につながる全学 DX 基礎対応を推進します。
- (6) 「経営学部データサイエンス学科（届出準備中）」の令和5年4月開設に向けた準備を推進し、新学科を軸にすべての学生がデータサイエンス分野の基礎知識を修得できる仕組みを定着させます。
- (7) 研究活動を更に奨励し、外部公表の促進、内部共有の充実を目指します。

3 学修環境・支援施策(焦点=学生総合満足度の上昇)

- (1) 卒業年次生アンケートを確実に実行し、回収率を引き上げ、学修環境の改善につなげます。
- (2) 快適で利便性が高く魅力あふれるキャンパス、迅速で親切なスタッフ体制を構築します。
- (3) スポーツ強化振興団体をはじめ、各種学内学生団体（部・サークル）の活動の更なる活性化を目指し、すべての学生が充実した学生生活を送れるよう支援します。

4 社会連携施策(焦点=学生が主役の社会連携活動を拡充する)

- (1) 学生が企業（社会人）及び地域社会と交流する機会を増やします。
- (2) 高校生向けに、アジアへの理解と関心を深める企画を展開します。
- (3) 卒業生向けの広報（SNS 等）を強化し、在校生との交流機会を拡充します。
- (4) 研究成果の広報を拡充し、地域及び社会貢献に結びつけます。

5 大学運営施策

- (1) 本学の特長や強みを更に昇華させるためのブランディング戦略を策定する中で、学部学科の改編あるいは開設等を含む将来構想を検討し、ターゲットを明確にした戦略的な広報活動を推進することにより、認知度向上・志願者獲得を図ります。
- (2) 大学評価（認証評価）結果を踏まえ、指摘された課題の解決に取り組むとともに、「日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード」の遵守に努め、必要に応じて改善を行い、結果を公表することにより、本学の持続的発展を支えるガバナンス体制を構築します。
- (3) 「ICT 教育環境整備 3 カ年計画」の内容を精査し、第 3 期 5 カ年中期行動計画に包含する形で、DX 時代に対応可能な人材育成に資する ICT 教育環境を整備するとともに、電子決裁システムの導入及び会議資料や各種申請書・文書保存方法のペーパーレス化により大学事務の業務改善・効率化を推進します。
- (4) 財政に関する達成指標等を明確化することにより、教育・研究活動を安定的に支える財政基盤を構築します。
- (5) 大学運営に必要な専門的な知識・スキルを習得するための実践的な研修を実施することにより、大学を取り巻く環境変化に対応し、業務の変革・改善を推進する人材を育成します。
- (6) 日の出キャンパス再開発及び既存建物の修繕・改修工事を計画的に実施するとともに、武蔵野キャンパス未整備地区の将来開発へ向けたキャンパスマスタープランを策定します。
- (7) 令和 4 年度中に SDGs 宣言を行い、SDGs の実現に向けた様々な教育・研究活動や大学運営における取り組みを推進・集約し、積極的に学内外へ発信します。

Ⅶ 財政計画

収支計画

単位: 百万円

年度	令和3年度 見込	令和4年度 計画	令和5年度 計画	令和6年度 計画	令和7年度 計画	令和8年度 計画	累計 (令和4～8年度)
① 教育活動収入	8,451	8,374	8,966	8,925	9,036	9,081	44,382
(うち、学生生徒等納付金)	(6,896)	(6,816)	(7,354)	(7,330)	(7,302)	(7,325)	(36,127)
② 教育活動収支差額	138	189	182	225	274	284	1,154
③ 経常収支差額	175	217	202	240	282	291	1,232
④ 経常収支差額比率(%)	2.0%	2.5%	2.2%	2.6%	3.1%	3.2%	2.7%
⑤ 基本金組入前 当年度収支差額	107	338	232	185	228	237	1,220

百万円未満切り捨て

資金計画

単位: 百万円

年度	令和3年度 見込	令和4年度 計画	令和5年度 計画	令和6年度 計画	令和7年度 計画	令和8年度 計画	累計 (令和4～8年度)
① 支払資金(期初残高)	2,921	2,535	2,330	3,041	4,222	5,032	—
② 教育活動資金収支差額	1,147	1,657	1,223	1,180	1,102	1,176	6,338
③ 施設整備等活動資金収支差額	△ 1,634	△ 1,919	△ 535	△ 186	△ 105	△ 85	△ 2,830
④ その他の活動資金収支差額	102	57	22	187	△ 189	△ 220	△ 143
⑤ 支払資金増減(②+③+④)	△ 385	△ 204	710	1,181	809	870	3,366
⑥ 支払資金(期末残高)(①+⑤)	2,535	2,330	3,041	4,222	5,032	5,903	—

百万円未満切り捨て

設備投資計画

単位: 百万円

年度	令和3年度 見込	令和4年度 計画	令和5年度 計画	令和6年度 計画	令和7年度 計画	令和8年度 計画	累計 (令和4～8年度)
① 設備投資	△ 1,665	△ 2,128	△ 623	△ 190	△ 108	△ 89	△ 3,138
② 経費支出	△ 481	△ 432	△ 255	△ 291	△ 256	△ 272	△ 1,506
計	△ 2,146	△ 2,560	△ 879	△ 481	△ 365	△ 361	△ 4,646

百万円未満切り捨て